

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 10 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 25 年 10 月 4 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 17.6～18.5℃、北一時東の風 2.4～4.4m/s で海は若干風波が強かった。当日は大潮で、10 時 29 分干潮、16 時 28 分満潮だった(東京都港湾局のデータ)。なお、調査日 2 日前の 10 月 2 日に 35.0mm の降雨が認められた。各地点の概況を下表に示す。

調査の結果、各調査地点においての確認個体数は 8 月と比較して著しく減少したが、夏季に産卵期を迎えた魚類の稚魚が若干確認された。いずれの地点においても、マゴチの稚魚が確認されたが、大きさはまちまちであった。葛西人工渚で 8 月調査時大量に確認されたニホンイサザアミは今回調査では確認されなかった。

2013/10/4	葛西人工渚	お台場海浜公園	城南大橋
作業時刻	11:50-12:50	8:45-9:35	10:10-10:50
水温(℃)	20.7	22.6	22.6
塩分	25.8	26.4	15.5
透視度(cm)	62	88	53
D0(mg/L)	6.6	4.9	6.1
D0飽和度(%)	84.2	65.2	75.8
波浪(m)	<0.1	0.1	0.5
pH	7.9	7.8	7.7
水の臭気	カビ臭	カビ臭(微)	カビ臭(微)
備考			やや波が高かった

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	葛西人工渚	お台場海浜公園	城南大橋
魚種 (多い順 ^注)	マゴチ(+)	ビリンゴ(c)	マハゼ(+)
	イネゴチ(r)	ヒメハゼ(+)	マゴチ(+)
	シロギス(r)	シロギス(r)	
	サツパ(r)	マゴチ(r)	
	ヒメハゼ(r)		
魚類以外	アキアミ(c)	ユビナガホンヤドカリ(+)	コウロエンカワヒバリガイ(c)
	エビジャコ属(c)	アサリ(c)	タイワンガザミ(r)
備考	近傍の干潟でハマグリが確認された。	ビリンゴはいずれも成魚であった。	マハゼはいずれも全長 100～140mm の成魚であった、

注) 表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

葛西人工渚 採取試料



調査地の様子（やや潮位が高かった）



近傍の干潟で確認されたハマグリ
（放流されたものが成長したと思われる）

確認魚



本地点では6月、8月と連続して確認されている。東京湾をはじめ、全国の内湾や汽水域に生息する小型魚で、産卵期は6月から9月。前回の8月調査と比較して約2倍に成長していた。



稚魚調査・成魚調査を含めてはじめて確認された。マゴチとは体の斑紋や、頭の大きさに区別できる。マゴチと同じ環境に生息するが、成魚はマゴチほど大きくならない。

お台場海浜公園 採取試料



8月調査時確認されなかったピリンゴの成魚が多く確認された。



調査地の様子



地引網調査の様子

確認魚



沿岸の砂底に生息し、東京湾奥部には少ない。本種の稚魚は同程度の大きさのものが前回の8月調査においても捕獲された。これらの確認は本種の産卵期が5~10月と長期にわたるためであると推定される。



4月調査では、本種の稚魚が多く捕獲されたが、前回の8月調査では確認されなかった。今回の個体は、全長40mm前後の成魚であり、夏季に移動していたものが戻ってきたと思われる。

城南大橋 採取試料



調査地の様子
(干潟の干出は少なかった)



地引網調査の様子
(波がやや高かった)

確認魚



今回調査ではマハゼは本地点でのみ確認された。確認されたマハゼは体長が100~140mmの大きな個体で、ゴカイ等の餌生物の生息条件が良好であるためと思われる。



マゴチの稚魚は毎年夏季を中心に捕獲されるが、本年度は体長が10数mm~40mmと大きさに幅広い傾向がうかがえる。通常、産卵期が4~7月とされるが、本年度は8月以降も産卵が行われていたと推定される。